

放牧肉用牛シンポジウム開催要領

テーマ：放牧技術の新たな展開とそのポテンシャルを探るシンポジウム
「放牧牛肉の実力を探る」

放牧を普及推進するためには、消費者にもっと放牧畜産物の良さをアピールし、共感を得ることによって川下から放牧畜産物の消費ニーズを拡大していく必要がある。このため、消費地において、放牧主体の牛の飼い方、健康面からみた放牧牛肉の良さ等を紹介し、放牧畜産物普及の一助とする。

主催：一般社団法人日本草地畜産種子協会

場所：全国家電会館 5 階講堂（東京都文京区湯島 3-6-1、電話 03-3832-4291）

期日：平成 30 年 2 月 27 日（火）

1. 開会 挨拶 13:10～13:20

2. 講演（座長：萬田 富治 氏（一財）生物科学安全研究所 顧問）
 - (1) 「日本の食料生産と地域創生を支える放牧技術のポテンシャル」
後藤 貴文 氏（鹿児島大学農学部） 13:20～14:00

 - (2) 「放牧による肉用子牛の低コスト生産技術」
永松 英治 氏（永松牧場） 14:00～14:40

 - (3) 「食肉生産としての放牧技術のポテンシャル」 14:40～15:20
小笠原英毅 氏（北里大学獣医学部附属フィールドサイエンスセンター）

 - (休憩 15:20～15:30)

 - (4) 「消費者が求める牛肉の現在と未来：消費者とシェフが支える農業」
千葉 祐士 氏（株式会社 門崎） 15:30～16:10

 - (5) 「日本の健康を支える放牧のポテンシャル —牧草牛肉の可能性—」
斎藤 糧三 氏（医師、日本機能性医学研究所、Saito farm） 16:10～16:50

 - (6) 「放牧を取り入れた畜産と消費者と生産者の絆」
田中 一馬 氏（田中畜産） 16:50～17:30

3. 話題提供
放牧認証制度について（一社）日本草地畜産種子協会 17:30～17:45